合志市
KOSHI CITY

合志 魅力
合志市 図鑑

出会いに感謝し
自らの道を究める

バレーボール男子日本代表コーチ

坂（さか） 梨（なし） 朋（とも） 彦（ひこ）

第22回アジア選手権大会（開催地：イラン）で優勝
（令和５年８月26日・前列右から６人目が坂梨さん）

合志市に帰省、荒木市長を表敬訪問
（令和５年８月31日・合志市役所）

― 今年、コーチとして招集されたバレーボール男子日本代表は、８月のアジア選手権で３大会ぶりに優勝しました。その直後の束の間の帰省となりましたね。

「プロになってから、なかなか合志市に帰って来られないんです。あっても年に１回とか。今回も、本当は友人に会う時間を取りたいんですけど…。友人や、西合志中学校バレー部時代の仲間たち、中学校時代しのぎを削ったライバルで、熊本工業高校バレー部で一緒になって春高バレー出場を成し遂げた合志中学校の仲間たちをはじめ、僕の知らないところで応援してくれている。本当にありがたいですね。彼らのおかげで、今の自分があると思っています」

― 男子日本代表の状況はいかがですか？

「皆、調子が上がってきて、チームの成熟度、連携も深まっている段階です。オリンピック予選までの残りの時間で、上がってきている調子を本物にしないといけないと思っています」

― コーチとして、チームの中での坂梨さんの役割とは？

「練習で選手にサーブやスパイクを打つというのは一番なんですけど、僕に求められている、出来ることは、選手の話を聞き、気持ちを整理してあげるような役割だと思っています。表情とかプレーを見て、時には映像を使って、選手とコミュニケーションをとるようにしています」

― 選手からのアプローチもあるんですか？

「自分のプレーに迷いのある時などに“映像を一緒に確認してほしい”と言われることがあります。練習中に“今のプレーがどうだったか？”と聞いてきてくれることもありますので、僕が思ったことはしっかり伝えるようにしています。でも、言う前に、”自分はどう思ったのか”ということを選手に聞くようにしています。各々、プライドや自信もあって、選ばれて来ていますし、人生をバレーボールに賭けているはずですからね。言葉をかける時は、その選手によって言葉を選び、対応を変えるようにもしています」

日本代表での坂梨さん（右）

― 近年はデータが重視され、分析を行う『アナリスト』という専門スタッフもいるなど、随分変わってきましたね。

「間違いなく変わってきていると思います。試合中、『アナリスト』の横でインカムを繋いでベンチに情報提供するのが仕事ですが、自分が選手としてやってきたフィーリング（感覚）も、まだ残っています。自分の感覚とのすり合わせもして、本当に出した方が良いデータかどうか、伝えるべきデータかどうか、慎重に扱っています。戦術に関わる話になればなるほど、責任も大きくなってきますので。各コーチが、分担するエリアの事前データと見比べて、実際どう変わっているのか、戦術のままで良いか、変更しないといけないか、ということを行っている感じです。僕は、特にブロックとか、ディフェンスですね。元々リベロをやっていたので、そういうところをメインで見て、あとは、全体的に、相手のスパイクのコースを見て、それをディフェンスに落とし込んで、作戦を遂行するのか、ポジションを変更するのか、ということをベンチに伝えていくようなところですね」

選手・コーチで10年在籍した堺ブレイザーズ時代
（左：選手時代　右：コーチ時代）

西合志中央小学校
バレーボール部時代の坂梨さん

坂梨さん提供

西合志中学校のバレーボール部時代

― 元々、コーチになることは考えていたんですか？

「あまり考えていなかったですね。でも、それこそ父からも中学生の時に教えてもらっていたし、小学３年生からいろんな監督さんたちとやってきました。それぞれの哲学と伝え方があり、その良かったところを吸収しつつ…。そして、日本代表にはいろんな選手がいます。コミュニケーションのとり方というのは、今までの指導者たちと選手たちからきていると思います。あと、コーチとして選手に負けないぐらいの速い球と強い球を打ちたい。だから、選手に負けないようにトレーニング、体作りもやっています。目の前には今、自分が求めるサーブスピードとかを出す選手たちがいる。何であんなに速いサーブを打てるのかなど、日本代表の選手たちを日々参考にさせてもらっています。世界の選手を見られるのもそうですけど、すごく勉強になります。本当に」

― その坂梨さんにとって、合志市とはどんな場所ですか？

「僕が育ってきた合志市の思い出が、やっぱりずっと支えになっています。“子育てとかも このまちで出来たら良いな“ と思っていました。ただ、求められる場所で仕事をしないといけないし、その時々で決断しながら今に至ります。どこにいるのかどうかも含めて、先のことをあえて決めないようにしているという…。たぶん性格もあるんです。自分で、自分の人生がどうなっていくのか、ということを楽しんでいる部分もどこかにある。今出来る100%が、また明日出来るかどうかっていう、そういう気持ちで過ごしています。でも、やっぱり、”合志市に戻りたい” という気持ちもあります」

― 今年は、母校・西合志中学校の男子バレー部の後輩たちが、坂梨さんたち以来となる、九州中体連大会に出場しました。

「僕たちの時から21年。そういう月日を経て “バレー部が活躍した“ っていう話は、すごく嬉しかったです。当時の仲間たちと連絡を取り合い、ささやかですが、バレー部の子たちを応援させてもらいました。僕は、スポーツから学んできたことが特に多くて、また、そういう人生の途中にいます。自分の好きなことに脇目もふらず突き進んで、自分の中にある理想に、疑わず進んでいく。自分で ”これだ“ と決めたことが見つかったら、その時がチャンスだと思うから。その一つを追い求めていって欲しいですね」

― チャンスと言えば、海外へ修行に行ったこともそうだったんですか？

「堺ブレイザーズのコーチの時に、ブラジルのナショナルチーム（代表チーム）に行きました。“世界の舞台で戦ってみたい“ と思ったのもブラジルに行った後ですね。同じチームにいたブラジル人のコーチが、 ”君はちゃんと世界のバレーを見たほうが良いよ。ブラジルに行くか？“ と言ってくれたので、思い切って ”行きます” と言って。ブラジルでは、皆にすごくお世話になったんですよ、何から何まで。“絶対にいつか恩返ししないと“ と思った。僕は、その舞台を 世界クラブ選手権 と思っていたんです。所属チームが日本で優勝して、アジアで優勝したら出られるんですね。 ” 世界クラブ選手権に出て、ブラジルの人たちに恩返ししよう“ と思っていたんですけど、日本代表に入って再会したので、 ”この道があったか“ と（笑）。 あの時に会った海外の人たちと再会する、ということが日本代表に入って急に増えました。本当に繋がっていますね」

― 坂梨さんの今があるのは、『人との縁』ということも大きいようですね。

「僕は、損得というよりも、自分が楽しいと思う、人付き合い、コミュニケーションを選んで来たのかなと、今思っています。その時々で、自分の気持ちが傾いたほうに決断するようにしています。そして、ブラジルに行く時は、家族が “良い“ と言ってくれました。特に奥さんには、こういう環境でやらせてもらっていることに感謝しています。結局、自分の周りにいる人たちを大切に出来なかったら、応援される人にもなれないだろうし、チャンスもたぶん掴み取れないし、気づかないでしょう。大事なのは、親もそうだし、友人もそうだし、出会う人たち全て。やっぱり、愛するじゃないけども、好きになれるような気持ちで、皆が日々過ごしていければ…。合志市の子どもたちには、 ”出会いを大切にしたほうが良い“ と伝えたいですね。なりたい自分になれるかどうかは分からないけども、なった自分が、たぶん本当の自分。“日々どういう気持ちで過ごしているか“ ということが、反映されるんだと思うんです」

坂梨さん提供

熊本工業高校時代、県代表として春高バレーに出場
（平成17年3月）

坂梨さん提供

坂梨さん提供

上：ブラジル代表の
ブロック練習で打ち込む
坂梨さん

左：現地のスポーツ番組の
インタビューを受ける
坂梨さん

（いずれも平成30年）

合志市
KOSHI CITY

合志 魅力 図鑑

五輪（パリ）への切符を掴（つか）む―
覚悟として思っている

市長表敬訪問後にインタビュー
（令和５年８月31日　聞き手：三宅 合志市広報官）

ＪＴサンダーズ広島（現所属チーム）での坂梨さん

坂梨さん提供

― いよいよ９月30日からパリオリンピック予選（ワールドカップバレー2023）が始まります。

「“間違いなく ここで決めないといけない”と思っています。しっかりと、パリオリンピックの切符（出場権）を掴む。落とすことは考えていないんですけど、それは油断ではなく、覚悟として思っています。そのためには、皆さんの声援が間違いなく後押しになります。あとは、小さい時から僕を知っている、親族、友人、バレーの仲間たち、そして多くの皆さんに、“坂梨、頑張っているな”と思ってもらえればと思います。“まだまだ自分の道を究めていきたい”と思っていることが伝われば嬉しいです」